

経済産業省総合調整室 御中

R2デジタルプラットフォーム構築事業 10年データの検証結果

検証概要

■ 材料（検証データフォルダ内）

➤ 検証データ : A

200901-201901時系列（秘匿あり）10年.xls

➤ 照合データ : B

- ① 200801-201301 h2daakhc.xls
- ② 200812-201312 h2daakhc.xls
- ③ 200912-201412 h2daakhc.xls
- ④ 201012-201512 h2daakhc.xls

➤ 参考データ : C

①shosai_24.xls ②shosai_25.xls ③shosai_26.xls ④shosai_27.xls ⑤shosai_28.xls ⑥shosai_29.xls

◆ 経済産業省生産動態統計 最近の見直し

<https://www.meti.go.jp/statistics/tyo/seidou/minaoshi.html>

➤ 参考年報

年報2010年統計表

■ 目的

- ① 2011年12月以前の秘匿を確認する
- ② 2010年-2014年データと2015年-2019年データとの数値の継続性を確認する

■ 資料

鉱工業室担当者より提供の別紙「提供データの説明、注意事項」参照

検証概要

■ 検証条件

- 月報番号+品目番号でユニークではなく、品目名称も変更しているため、キーとなるコードが存在しない。そのためシステム的なチェックができない。
- A10年長期時系列データと年報統計表と紐づく品目を理解して、正しい数字であるかを的確に判断するのは困難であった(年報統計表では、単位を大きくして桁数を省略する。品目名称を変更する、品目をまとめて統計表にする等あり)。そのため、検証のため参照するデータは、同じフォーマットである過去に公表された長期時系列データとした。
- どのようなルールで秘匿がされているかは不明である。
- 年間補正是A10年長期時系列データに反映されている。正誤表もA10年長期時系列データに反映されている。比較するB公表長期時系列データには公表後に反映しているため、いつ時点の公表データかによって数値が大きく変わっている。
- 品目の変更情報（参考データC）はデータファイルではなく、調査票の図に説明を加えたものである。
- 長期時系列データを作成するツールがあり、プログラムを組んでいるので、長期時系列データ作成にあたっては、同じ処理がされるものとする。

以上の条件により、全件を照合するようなシステム的なデータ検証は不可能であるため、A10年長期時系列データの検証は、以下の2点について確認箇所をデータファイルから抽出して目視で過去に公表されたB長期時系列データと照合した。

- ①秘匿の検証は、秘匿個所が同じであるか
- ②品目の継続性の確認は、追加・削除・統合等した品目が正しい処理がされているか

秘匿検証

1. 材料

A:検証データ

200901-201901時系列（秘匿あり）10年.xls

2020年10月に作成したグラフ用長期時系列データ

B:比較データ

201012-201512_h2daakhc.xls

2015年12月に公表された長期時系列(61か月)データ

2. 検証方法

AとBを比較し、2011年1月～12月で秘匿個所(x)に相違ないか確認した。

3. 作業手順

①AとBより、2011年1月～12月までのデータを切り取り、検証作業用エクセルファイルにコピーした。

②AとBの品目を行で揃えた

③1月より12月まで、ABの秘匿された各セルの値に相違がないか確認した。

※ 検証作業用ファイル：【秘匿検証】201101-201112.xls 参照

4. 検証結果

A10年長期時系列データと2015年12月に公表されたデータ(201012-201512_h2daakhc.xls)の2011年1月～12月の秘匿個所を比較した結果、相違箇所は、A10年長期時系列データで、すでに調査対象から削除されていた18品目のみだった。

【秘匿数】

	全品目数	削除された品目	追加された品目	2011年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
A	5,969	35	40	44	38	38	38	38	47	47	53	53	53	47	53
B	5,964			62	56	56	56	56	65	65	71	71	71	65	71
相違				18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18

品目検証

1. 材料

A:検証データ

200901-201901時系列（秘匿あり）10年.xls
2020年10月に作成したグラフ用長期時系列データ

B:比較データ

- ① 201012-201512 h2daakhc.xls
2015年12月に公表された長期時系列(61か月)データ
- ②200912-201412 h2daakhc.xls
2014年12月に公表された長期時系列(61か月)データ
- ③200812-201312 h2daakhc.xls
2013年12月に公表された長期時系列(61か月)データ

C:参考データ

①shosai_24.xls ②shosai_25.xls ③shosai_26.xls ④shosai_27.xls ⑤shosai_28.xls ⑥shosai_29.xls
➤ 経済産業省生産動態統計 最近の見直し
<https://www.meti.go.jp/statistics/tyo/seidou/minaoshi.html>

2. 検証方法

参考データ(C)の品目改正情報より、検証データ(A)から比較データ (B) へ遡及し、数字が正しいか確認した。

3. 検証手順

- ①追加品目の情報を参考データ(C)から確認した。
- ②追加時点の検証データ(A)と比較データ (B) の数字を確認した。
※廃止、統合も同様に実施した。

4. 検証結果

確認した範囲では異常は見られなかった。

品目検証結果

改正内容	(改正年)品目	確認内容
追加	(H29)2320 0111 LEDランプ	Aで、0111LEDランプ(直管)の新設を確認した。2017年からデータがあった。
追加	(H26)6160 0134 ポリフェニレンサルファイド	Aで、0134 ポリフェニレンサルファイドの新設を確認した。AとB②で2014年からデータがあった。
追加	(H24)2290 0117 サーボアンプ	AとB③B②B①で201201からデータがあることを確認した。201201は全て同じ数値であった。
追加	(H24)5130 0112~0115 生産以外の調査項目を削除し、生産金額を調査に追加する。	Aで、201201から生産金額があることを確認した。B①と同じ数値であることを確認した。
廃止	(H29)2310 0001 電子レンジ (H29)2310 0103 ジャーポット	Aに品目なし。B①に品目とデータがあることを確認した。
廃止	(H25)3110 0106 麻織物	Aに品目なし。
統合	(H26)1010 0106+0107+0108+0110+0111+0112+0113=01 17 その他のフェロアロイ	Aの201201の0117とB③の統合前の品目を合算値が同じであることを確認した。
統合	(H27)2350 0120 光コネクタ+0123その他のコネクタ=0122 その他のコネクタ	Aの201001 0122数値がB②の0120+0123と同じであることを確認した。
統合	(H26)6160 0134 変性ポリフェニレンエーテル+0135 その他の樹脂=0135その他の樹脂	Aの200901 0135数値がB②0134+0135と同じであることを確認した。B②とB③の200901数値は同じであった。
統合	(H25)3110 0105 交織+0104 純=0104 絹・絹紡織物	AやB③の品目が0104 絹・絹紡織物だった。AとB③の0104数値が同じであることを確認した。
名称変更	(H29)2320 0110 LEDランプ	Aで、0110LEDランプ(電球形)(直管を除く)に変更を確認した。2012年からデータがあった。B①B②とAの201201が同じ数値であることを確認した。
移設	(H26)2200 0109 軸受メタル	Aで2200 0109軸受メタルを確認した。B③で2410 0107軸受メタルを確認した。AとB③の201001で生産数量の単位が変更(個→千個)になっていたが、数値が同じであることを確認した。



株式会社インテージリサーチ

www.intage-research.co.jp/